

# 接続後期 (1年生GW~7月)

## 学校 だいすき

学校生活に慣れ、安心して自信をもって自己発揮しながら、友達と楽しく過ごそうとする時期

<活動や体験を取り入れた学習を通して、めあてに向かって意欲的に学習に取り組む体験を>



学習や生活の様々な場面で幼児期に育った力を発揮する中で、自分のよさに気付き、さらに伸ばすことができるような学習活動の工夫を

## 事例22 接続後期 5月

## なんばんめ 算数科：なんばんめ

小学校

思考力が発揮されている姿を中心に

### 【思考力、判断力、表現力等の基礎】

「何番目」「何人」を動作化しながら繰り返し行うことによって、「何番目」と「何人」の順序数と集合数の違いを体験的に考えることができるようになる。

### <活動のねらい>

「何番目、何人」ゲームを行い、順序数と集合数の違いを体験的に考えることができるようにする。

### <接続を踏まえた援助のポイント>

幼児期の遊びや生活の中で、幼児たちは身近にある数字や文字に関心をもったり物を数えることを楽しんだりしている。例えば、日々、自分のグループの人に手紙を配るために人数を数えたり、手洗いやトイレの順番を待つときに「私が3番だった」など、順番を意識したりしている。特に5歳児の後半になると鬼ごっこやリレー等を繰り返し楽しむ中で、チームの人数を確かめて調整したり、カルタとりや双六遊び等で競い合いながら数を数えたりするなど、数量への興味や関心は深まり、感覚も磨かれてきている。

こうした幼児期の数量への関心や感覚は、小学校の学習に関心をもって取り組み、日常生活の中でも活用しようとする態度につながるものである。

#### 主な学習活動

#### 指導上の留意点

1. 前時の活動を振り返り、本時のめあてを確認する。

- より具体的に考えることができるように椅子を並べて座らせ、体験を通して理解していくようにする。

めあて だれが立てばよいか 考えよう。

2. 順序数と集合数の違いを考える。
  - ・ 1グループ毎に前に出て、椅子に座る。
  - ・ 「何番目、何人」ゲームをする。
  - ・ 「前から」「後ろから」の言葉を使う。
  - ・ 誰が立てばよいか、考える。

前から○番目の人、立ちましょう。  
後ろから○人、立ちましょう。  
後ろから○番目人、立ちましょう。  
前から○人、立ちましょう。 等

- 幼稚園や保育所（園）での経験を想起させ、児童が順序数や集合数に対して、より具体的なイメージをもち、「わかる」「できる」という安心感や「やってみよう」という意欲をもつことができるようにする。
- 「何番目の人、立ちましょう」と言った後、「どちらから」と問うことにより、基点を決めることの大切さに気付くようにする。
- 数え始めの位置や数えていく方向を決めて数で表すように、動作化を繰り返し行い理解できるようにする。
- 絵に色をぬる活動を通して、順序数と集合数の違いをとらえられるようにする。

3. 「ぬりましょう」をやってみる。

## 実践事例

### <やったこと何回もあるよ>

T：皆さんは、幼稚園やお当番さんをしたことがあるそうですね。先生から聞きましたよ。

C：お当番のとき、お手紙を配ったり牛乳を配ったりしました。

C：グループのお友達の数を数えて、「牛乳を〇本、ください」ってもらいに行きました。

T：自分のグループの友達が〇人だから、牛乳は〇本、って考えてもらいに行ったのですね。

C：そうです。数えるの得意。

### <どこから、数えるの>

T：では、「数えて考える」ゲームをしましょう。

C：やったあ。ゲーム、大好き。

T：では、先生が用意したこの椅子に、Iグループさん、出てきて座ってください。

C：どこでもいいですか。

T：前の人から順番に座ってください。

T：では、ゲームを始めます。

T：「4番目の人、立ちましょう」さあ、だれが立てばよいでしょう。

T：皆さん、Aさんが立ちましたが、どうですか。

C：いいです。Aさん、1、2、3、4、4番目だから。

T：皆さん、Aさんでいいですか。

C：先生、こちらから数えたら、1、2、3、4 4番目はBさんです。

C：本当だ。どっちからって決めてなかったから、Bさんも4番だ。

T：「どっちからって決めてなかった」って、よいことに気が付きましたね。

何番目だけでは、どこから数えたらいいかわからないですね。じゃあ、どうしたらいいでしょう。

C：「前から」とか、「後ろから」とか、最初にはっきり言うといいと思います。

T：皆さんはどう思いますか。

C：同じです。

T：では、「前から4番目の人、立ちましょう」だれが立てばよいでしょう。

C：Aさんです。いいです。

T：では、「Iグループさん、前から6人、立ちましょう」

さあ、Iグループさんが考えていますよ。だれが立てばよいでしょう。

C：6人、6人、6番目じゃない。

C：6の人まで皆、立つよ。

T：さあ、Iグループさんが考えて6人立っています。どうでしょうか。

C：いいです。何番目じゃないから、何人だから、6人でいいです。

T：「何番目の人」というときと「何人」というときでは、違いがありますね。

ほかのグループでもやってみましょう。今度は「後ろから」もあるかもしれませんよ。

C：難しくしてください。もっとやりたいです。



### <考察>

○ゲーム化することで「保育所（園）、幼稚園等でやったことがある」という安心感が生まれ、進んで考えてみようとする気持ちを支えている。体験を通して基点を意識させ、「何番目」と「何人」の違いを体験的に捉え、新たな思考の始まりとなっていくことが重要である。

## 事例23 接続後期 6月

## せわを しよう

## 生活科：きれいにさいてね 小学校

植物に主体的に関わり思いや願いをもち続ける姿を中心に

### 【学びに向かう力，人間性等】

栽培活動を継続的に行うことを通して，命ある植物を大切に思い，成長への願いをもって主体的に関わるようになる。

### <活動のねらい>

植物の変化成長を確かめたり喜んだりして親しみをもち，進んで世話をしようとする。

### <接続を踏まえた援助のポイント>

幼児期の自然との関わりは，身近な自然と触れ合う体験を重ねながら育まれている。先生や友達と一緒に園庭の愛らしい草花やウサギや小鳥などの飼育動物と触れ合い，不思議に出会ったり美しさに感動したりしながら，親しみを感じている。5歳児の後半頃には，好奇心や探求心をもって自分から関わっていくようになる。こうした幼児期の経験は，小学校の生活や学習において，自然の事物や現象について関心をもち，その理解を確かなものにしていく基礎となるものである。

主な学習活動	指導上の留意点
1. 自分の植木鉢を机の上に置き，自分の植物の様子を確認する。 2. 本時のめあてを確認する。	○ 鉢を置いているテラスでの観察に加え，日頃の水やりだけでは気づきにくい細部の変化にも関心が向くように，机の上で観察できるようにする。
<b>めあて お花をよく見て，お話をしよう。</b>	
3. 自分の植物をよく観察する。 ・葉を触ってみる。 ・葉の色や形をみる。 ・葉の枚数を数える。 ・伸び方をみる。 ・友達と比べてみる。 など  4. 自分の植物の成長を記録する。 ・観察カードに絵をかく。 ・観察して思ったことや，これから自分はどんな世話をしようと思っているかを文に書いて自分の植物に語りかける。  5. 友達同士で気付いたことを伝え合う。 ・成長の様子で気付いたことやうれしいこと，友達に見てほしいことなどを話す。	○ 教師も児童が自分の植物に付けた名前（あつくん ひめちゃん，ねねちゃんなど）で様子を聞くようにしていく。 ○ 児童が自分自身の手で世話をする過程での気づきを取り上げたり成長の喜びに共感したりする。  ○ 成長への願いを絵や言葉で記録させていくことで自分の育てる植物に愛着をもたせる。  ○ これからの世話について，自分なりの考えをもち主体的に関わっていけるようにする。

## 実践事例

### <お話しよう>

T：名前を付けた自分のお花をよく見てあげましょう。

T：お友達と見合いこをしてもいいですね。

T：不思議なことや困ったことなど、気付いたことを自分のお花にたくさん、お話してみましよう。

C：なんか大きくなったね。


C：のっぽになったけど、葉っぱが少ない。大丈夫かな。

C：ここにも葉っぱみたいなものが出ているよ。

C：ほんとだ。ここからも出てくるのかな。

C：お水をやったら、葉っぱが「ありがとう」って言ったから、「どういたしまして」って言ったよ。



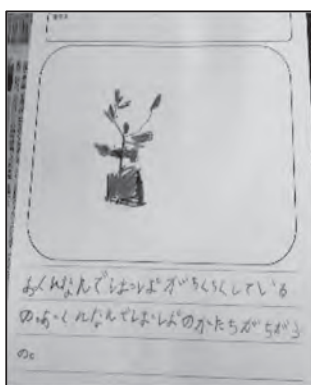
<見付けたよ・思いや願い> (以下の  内は「見つけたよカード」に児童が書いた言葉)



ねねちゃん、何で葉っぱの周りに毛があるの。こないだの朝水やるの忘れてごめんね。



ひめちゃん、きれいな花に咲いてね。ひめちゃん、何で葉っぱの間から葉っぱが出てきてるの。



あつくん、何で葉っぱがチクチクしているの。(双葉はツルツル、本葉には毛があるのに気付いて)



あさがおくん、何で白いの。(斑入りの葉っぱを見付けて)

### <世話をしよう>

T：自分のお花に「ごめんね」って、謝っている声が聞こえましたよ。

C：だって、お水をやるのを忘れていたから。枯れたら死んでしまうから。

C：死んだらもうお花は咲かないよ。だから、毎日、お世話をした方がいい。

T：水をやるお世話だけでいいですか。

C：「ひめちゃん、元気ですか」って、聞いたりする。

T：先生も「元気ですか」って言われたら、とてもうれしい気持ちになります。お花もきっと一緒だと思います。「お世話」は続けることが大切なので皆でやってみましようね。

### <考察>

○児童は自分が育てている植物に名前を付け、語りかけ、世話を続けることで愛着が湧いている。世話をしていく過程での児童の気付きを取り上げていくことで、不思議に思うことをいろいろな方法で解決していこうとするための調べ学習の場につながっている。

○記録（見つけたよカード）は重要で、その活用の工夫が児童に新たな主体的活動を誘発している。

## 事例24 接続後期 なつを たのしもう

7月

生活科：なつだ あそぼう

小学校

十二支公園での体験を振り返る姿を中心に

### 【思考力，判断力，表現力等の基礎】

身近な公園で色々な草花遊びをしたり生き物のいそうな場所を探したりして楽しみ，気付いたことを実態に合わせた振り返りカードに表したり，伝え合ったりして夏の草花や虫等の自然との関わりを深めていくようになる。

### <活動のねらい>

いろいろな草花遊びをしたり，生き物のいそうな場所を探したりして，自然の中で草花や生き物と遊ぶと楽しいことに気付くことができるようにする。

### <接続を踏まえた援助のポイント>

幼児期の地域の自然との関わりは，園外保育活動として年間を通して行われている。桜満開，虫捕り，紅葉ドングリ拾い等，自然の営みに沿うものや，雨や風，一面の雪等，天候によるものもある。まさに「そのとき」を逃さず保育活動に取り入れていくことで，その美しさや不思議さに感動し，幼児は身近な自然に親しみや関心をもつようになる。5歳児の後半頃には，自分から好奇心や探究心をもって自然と関わり，思ったことや考えたことをその幼児なりの言葉や絵で素直に表現し，「もっと知りたい，分きたい」とさらに関心を高めていく。

こうした直接体験を通した感動は，小学校の生活や学習において，自然の事物や現象について関心を持ち，その理解を確かなものにしようとする力となる。また，感性を働かせ，表現することで思いを伝えていくことを楽しむ姿につながる。

#### 主な学習活動

1. 十二支公園に行く。
2. 公園で遊ぶときの約束をする。
3. 十二支公園で草花や虫を探して遊ぶ。
4. 自分が見つけたものを先生や友達に知らせたり見せ合ったりする。
5. 学校に帰る。
6. 本時のめあてを確認する。

#### 指導上の留意点

- 公園での遊びへの期待感を高めるとともに，安全に関する事柄についても話し合うようにする。
- 夏の木々や道端の草花の様子に関心が向くよう働きかける。



めあて 十二支公園に行った 振り返りをしよう。

7. 自分が見つけたことを発表する。
  - ・虫の名前や特徴などを話す。
  - ・見つけた草花での遊びや気付いたこと，不思議に思ったことなどを話す。
8. 振り返りカードに自分が一番興味をもったことを絵や言葉で表現する。

- 学校内と違い，広い原っぱの十二支公園では夢中になって遊んだことを，感じたままに表現できるように振り返りを工夫し，五感を通して見つけたことや感じたことを発表することができるようにしていく。

## 実践事例

### <十二支公園>

T：十二支公園って、面白い名前の公園に行きましたね。

### <何が見付かったかな・何か気が付いたことがあるかな>

T：先生が黒板に書いた言葉を一緒に読んでみましょう。

C：「みみ」「め」「つかまえたもの」

T：「みみ」は、音で聞いたもの、「め」は、見付けたもの、「つかまえたもの」は、触ってみたものを、振り返りをして皆で伝え合ひましょう。

C：ウグイスの声が聞こえました。ホーホケキョって。

C：虫の声が聞こえました。

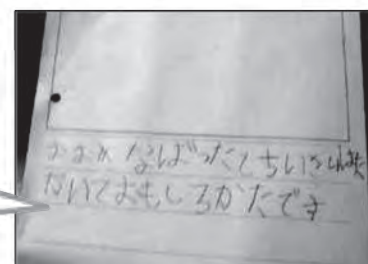
C：コオロギみたいな声だったけど、草の中を探したけどバッタしか見付からなかった。

C：バッタはまだ、赤ちゃんだった。

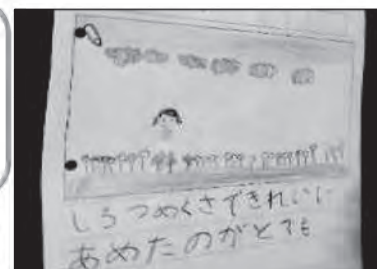
T：Aさんは、今日が記念日になりました。怖くて触れなかったバッタを自分の手で持ちましたよ。



大きなバッタと小さなバッタ  
がいておもしろかったです



シロツメクサで  
きれいに編めた  
のがとてもうれ  
しかった



C：赤トンボがいました。

C：そんなに赤くなかったよ。

T：じゃあ、トンボって書いておいて、あとで  
図鑑で調べてみましょうね。

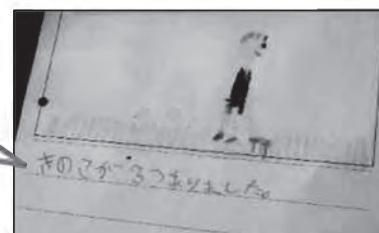
C：トンボの色を比べてみたら分かるよね。

C：丸いキノコも見付けました。小っちゃかったです。

C：シロツメクサがいっぱいあったので、編んでみました。幼稚園のときより上手にきれいに編めたので嬉しかったです。

T：難しいのに上手に編んでいましたね。十二支公園では、草花や虫をたくさん見付けることができましたね。また、みんなで行きましょう。

きのこが  
3つあり  
ました



### <考察>

○幼児期に身近な公園で遊んだ経験や、この時期の草花や虫に関わる話題などを投げかけることで、一人一人の興味や関心を引き出し、主体的に取り組んでいけるようにしていくことが大切である。

○自然との関わりは個々人で興味の在り様が異なるので、夢中になって遊ぶ姿を見取り、称賛したり感動を共有したりしながら、その場で価値付けていくようにする。また、価値付けることで子どもの思いや願いを引き出すことが、振り返りの場での自分なりの表現につながっている。

# 研究組織

## モデル小学校区

北方小学校区

- ☆ (社福・光法会) 光法保育園
- ☆ (社福・小倉社協) 北方なかよし保育園
- ☆ (市/社福・保育事業協会) 北方保育所

☆北九州市立小倉南幼稚園

☆北九州市立北方小学校

高見小学校区

☆ (社福・杉の実福祉会) 高見の森保育園

☆ (学法・高見学園) 高見幼稚園

☆北九州市立八幡東幼稚園

☆北九州市立高見小学校

大谷小学校区

☆北九州市立天籟寺保育所

☆ (学法・鳥井学園)  
第二明泉寺幼稚園

☆北九州市立大谷小学校

連携組織

☆保幼小連携推進連絡協議会

スーパーバイザー 鳴門教育大学教職大学院 教授 木下 光二

### 幼児教育アドバイザー

(H29年度)

- ☆ 黒田 玲子 (れんげ乳児保育園長)
- ☆ 濱崎 正子 (あおぞら保育所長)

(H29・30年度)

- ☆ 西澤 満子 (則松保育園長)
- ☆ 高原 恵子 (徳力団地幼稚園長)
- ☆ 北関 智佐 (上津役幼稚園長)
- ☆ 小島久須美 (認定こども園東筑紫短期大学附属幼稚園園長代理)

(H30年度)

- ☆ 吉岡 優子 (新栄はやとも保育園長)
- ☆ 坂田 里美 (永犬丸保育所長)

### 研究協力団体

- 北九州市保育所連盟
- 北九州市私立幼稚園連盟
- 北九州市立幼稚園園長会
- 北九州市立小学校校長会

### 関係各課

- 子ども家庭局 保育課
- 子ども家庭局 幼稚園こども園課
- 教育委員会 企画調整課
- 教育委員会 指導企画課
- 教育委員会 教育センター

### 北九州市幼児教育推進体制構築事業 担当

- 子ども家庭局保育課 ☆保育所支援担当係長 原 貴代美
- 子ども家庭局幼稚園・こども園課 ☆幼稚園・こども園担当係長 江口 和孝
- 教育委員会 指導第一課 ☆指導主事 宮崎 貴寛 ☆中浦 佳代 (現:すがお小学校教頭)
- 教育委員会 教育センター☆指導主事 梶山 幹子 ☆新森 勝貴 (現:松ヶ江北小学校長)
- 幼児教育推進員 ☆古賀 和子 ☆酒井 静子 ☆斉藤 智子 ☆和田 知子 (H28年度)